

## ■JIPAT講演会 報告 “モノの息吹を感じる” 博物館の展示デザイン

講師：木下史青（東京国立博物館 学芸企画部企画課 デザイン室長）

去る7月17日（金）東京国立博物館平成館1階大講堂にて協会主催の講演会が開催され、盛況好評のうちに終了いたしました。参加者は法人会員32社51名、正・一般会員41名、学生5名、ビジター40名の計137名。

木下氏は最近では非常に話題になった「国宝 阿修羅展」の展示デザインを手がけられた方で、ビジター参加者が多かったことから、木下氏の手がける展示デザインへの関心の高さが伺えました。

今回の講演会では木下氏が過去に手がけた豊富な実例を通して、展示デザインについてを数多くのスライドを交えながらお話いただきました。

博物館という展示空間造りについて、建築家やIPという立場ではなく展示デザイナーならではの視点によるお話はとても興味深いものばかりでした。

印象的であったのは、展示シーンをイメージづくるために必ず現地へ視察に訪れ、展示品へのアプローチの仕方や光の陰影など現地の空気感を実際に体感したうえで、博物館という「入れ物」の中においていかに忠実にその体験を表現するかということ大切にされていることでした。

その体験したイメージを創り出す要素として、最も重要なのが光による演出であり、

照明の明るさ、照射方向、色温度を何度も実験検証し、展示品によっては時間によってそれらを変化させ、展示品1点1点の表現形式や技法の特徴を見せる工夫をされていることには感心させられました。

このように木下氏の考える展示デザインとは、「人・物・場の関係をデザインする」ことであります。



それは主役であるモノをいかに魅力的に見せるために、展示品を見る人々・展示品・展示する空間とが一つになった風景をどのようにコンセプトづけ、表現するかということだと強く感じました。

つまり、ただ単純に1つのモノを見せるということではなく、そのモノのおかれている環境や歴史的背景、人とのかかわり方と関連づけた展示空間を造り上げる。そういった実際に目には見えないものまでもを表現することで、“モノの息吹を感じる”デザインが実現されるのでしょうか。

私たちがIPとしてさまざまな空間造りをする上で、“モノの息吹を感じる”デザインを常に心掛けたいものです。

木下氏は現在、東京国立博物館東洋館の展示リニューアルプロジェクトを進行されています。

今回の講演会でお聞きしたことを思い浮かべながら、新しく生まれ変わる展示空間を木下氏の視点でぜひ見てみたいと思います。

事業委員会 増本 陽子

## ■JIPAT会員交流 "インテリアを楽しむ会"

2009年JIPAT会員交流【インテリアを楽しむ会】は、“因州和紙の里と山陰の小京都倉吉”と題して鳥取県に行ってきました。9月5・6日1泊2日のツアーで10名（男4、女6）が参加。鳥取へ出発は皆同じ飛行機便になり、現地集合がすでに羽田から旅ははじまりました。

鳥取空港では、大因州製紙協業組合の方々に出迎えて頂き（旗はなかったですが）、社員の方が運転する車3台に乗り分け、鳥取空港から三朝温泉まで、旅を共にしました。当日は、ツアー参加者の（株）トミタの富田専務に仕切って頂き、和紙の世界にどっぷりと浸かりました。

湖山にある和紙のショールームからスタートし、その後、青谷の紙の資料館、原材料や加工の段階を見学、体験の紙漉きは、ワンドラブルです！工場長直々の手ほどきで紙を漉いた後模様を出すテクニックに挑戦。水が滴る杉の枝を漉いた紙の上にフリフリし水跡付け、ついでにおしりフリフリな～んで・・・

青谷での工場見学途中、皆、夢中で休憩を忘れていたところに、プーンとコーヒーのよい香り実に絶妙のタイミングでティーサービス。その後も、器に山盛りの鳥取”20世紀梨”のおやつ??これにもびっくり、こんな旅先で剥いて頂いた梨が食べられるなんて・・・不意打です・・・

◆忘れてはいけません。和紙の名工秋吉氏、参加者誰もがいつ会えるのかと待ちわびていました。和紙に打ち込む熱い気持ちと情熱が、物静かな中に溢れ、“色のルーツは自然素材の中にある”を信念に紙の色付けやデザインに向っている姿がとても印象深かったです。

◆三朝温泉宿では、昼間お世話になった大因州製紙協業組合の方に参加を願い、ラドンの湯に浸かった後、浴衣姿で夜のトークと宴を迎えました。秋吉氏の新たな柄と色に挑戦している作品もお持ちになり専門的会話が飛び交った三朝の夜でした。参加者の人数が、現地でのバスをチャーターするに至らず今回は、大因州製紙協業組合様のご厚意にて車を出して頂き、そして三朝温泉送迎バスをチャーターのように利用させて頂きましたことに感謝し、参加者全員、鳥取の旅が無事終了しましたことに感謝いたします。

2日目は、三徳山三佛寺立ち寄りそれから倉吉へ、地元倉吉の中国インテリアプランナー協会会員 菅原隆氏（龍設計工房）の交流を通し白壁土蔵群赤瓦街並について説明と案内。自ら改修した蔵跡がレストラン 佐々木として生まれ変わり、そちらで昼食と一緒に説明をお聞きしました。最後に、菅原氏からのお言葉をご紹介し終わりたいと思います。

（株）松田平田設計 森園 みどり



9月6日、倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区内の、一棟旧齋木邸一現だいにんぐ佐々木の陌（つし）二階、軒の低い脇床と一間床付き八帖、付属間三帖の狭い空間に、JIPAT 11人の方々のエネルギーなお姿がお揃いで、自己紹介もそこそこに食事が始まりました。

地域のこと、建物のこと等を話し、道路に面する出格子内のガラス窓の模様ガラスに話しが移り、此れだけの大きさのこの種のガラスはとても珍しいとの評価を頂いて、幾分誇りを感じて、少しは見所を見付けて頂けるのではと緊張が緩む心地がしました。

食事後、休む間もなく、伝統建物の案内と成ったが、メインとするポイントは、80年～100年前の住まいを、外観を替える事無く、現代の生活に適合させる為どの様な、方法をとるべきか、と云う命題であった。その一つが車庫である、二件の建物では出格子の内に車庫が必要で、其の課題を、可動の格子とする案で解決し、其のディテールと共に説明した。もう一点は景観部分には排気ガラー等の取付規制があり、この解決方法のディテールも合わせて紹介させていただいたのだが、他の地域でのご参考になればとの思いがお伝え出来たのであれば幸いです。その後は観光モードに入り、あるパーティの地酒巡りに合流させて頂き、利き酒のご様子でキャリアと感性から発される言葉に、地元の者として気付いていない魅力を、新鮮な念いで発見できた有意義な一日でした。最後にお別れの皆様笑顔にこの地の未来の可能性を感じながら手に手を振った。

菅原 隆 龍設計工房

## ■ 知って知らない

### ひむか焼石（宮崎県）

かなり強引に隣人にお茶を誘われた。お茶を出され“美味しいでしょう”と言われ、普段あまりお茶を飲まない私は曖昧な返事を返した。すると奥さんが急須を二つ持って来られ、二つの湯飲茶碗のそれぞれに白湯を注ぎ、そこに茶葉を入れた。早く沈んだ方を指差し、今貴方が飲んだお茶はこちらですと言われた。売りつけられるのではと早々に退散した。

其の夜、驚くことが起きた。二時間置きに尿意を覚え、其の都度気持ちの良いほど排尿ができた。翌日隣人の家に行き話を聞いた。私が痛風でビッコをひいているのを見て、この水を勧めたのだと。奥さんが神経痛で手の指も曲がらない状態だったのが、この水のおかげで、今は人様にお茶が出せるようになったので、君にも教えてあげようと思ったのだ。私は排尿のため水も良く飲みますし、利尿効果があると言われているウーロン茶を飲んでも排尿が少なく、それがどうやら痛風の原因であるようで、痛みがとれるまで静かにしているのである。試しにその石を買うことにした。販売元に電話をかけると丁度新宿のデパートで販売していると教えられ訪ねた。

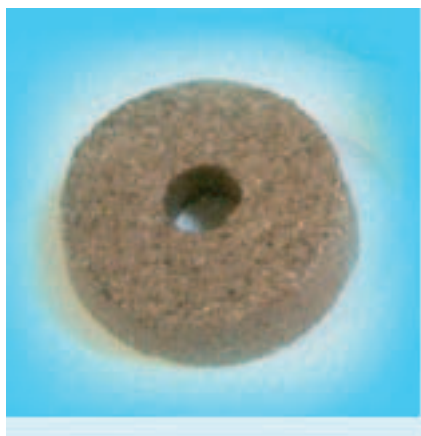
社長曰く“シラスという始良カルデラにある多孔質の穴のある砂で、宮崎では厄介者の土壌である、雨が降ると崖が崩れ、平地だと地中内部の砂が流れ空洞ができ、ある時突然陥没する。だが良い面もあり、そこから湧き出る水は良質で其の水を飲んでいる部落は医者いらずといわれた”。これが良い水になると思いついたのは何だったのですかと聞くと、この水を与えた野菜が立派に育つを見て、農家にこの水を与えることを提案した。其の年、その農家は農協から表彰された。どうだったと尋ねても良い返事がない。別の農家でも試してもらったら、やはり其の年の野菜の出来は素晴らしかった。が、やはり水が良かったと言ってくれない。それもそのはず競争相手が増えれば収入も少なくなるので良いとは言わない。

ある年0-157でカイワレ大根が疑われ大きな被害が出た、実はカイワレには全く関係が無かったのだが。その問題が起きてからはカイワレ大根の生産者は二度と疑われないようにと水の工夫を仕始めた、ある農家は活性炭を使うことを考えた。そこで其の農場に行きこの水を使うことを提案したが、かたくなに断られた。その農場では活性炭で濾過した水を風呂でも使っておられたので、その風呂の中に自分が作った水を入れたところ木炭の粒子が表面に現れた。その事があり、その農場主は自分の子供が水の研究で大学に行っているのだから調べてもらおうと、研究室に水を送った。そうしたら以下のような結果が出た。

○ PH 7.5 (5.8以上) カリウム1.0 (20以下) 塩素イオン11.0 (20以下) 硫酸性窒素等1.1 (10以下) 有機物等1.9 (10以下)  
( ) 内東京都水道水の基準



シラス砂



焼石

それで初めて飲み水に使えると分かり、簡単に誰でも自宅で水が作れる方法を考えた。シラスを固めて1300℃で焼くとこのようなドーナツ形になった。現在各地のデパートで販売していますが、デパートでは薬事法に触れるので病気が直ったとは言わないで下さいとか、そして生水は試飲させないで下さい。お茶は良いですといわれ販売をしています。今、宮崎ではこのシラスの粒子の細かさや多孔質の穴の開いている性質を利用して「濾過材」の研究が行われていて、この細かい穴で濾過することで薬同士が結合しやすくなり、例えば同じ大きさの粒子同士だと油と水も分離しない性質があります。それをエマルジョンといいます。がん細胞にカテーテルを入れそこにこの調合した薬のエマルジョンを注入すると、がん細胞だけに効果があり良い組織は傷つけない。そのような研究もされていますが、私は水だけの販売なので経験からくる結果を言いますと、ポットの中にこのドーナツ形の焼石を入れて置くだけでジャーの内部に湯垢が着きません。

また、瓶の中に入れておくだけでぬめりが出ません。ですからマンションの屋上の水槽に入れておくだけで5~6年は掃除をしなくて済みます。風呂用の焼石も販売していますが、使用された方からアトピー性皮膚炎が直ったとか、加齢臭がとれたとか報告が来ています。水道水が弱アルカリ性のイオン水に変わります。過剰になった活性酸素を除去するSOD酵素(=スーパー・オキシサイド・ディスムターゼ)が大変多く含まれています。この酵素SODの活動力は、加齢で減少し、個人差もありますが酵素SODの活動力低下は、各種の成人病や癌などの疾患の一因となります。また、この水は酸化し難い性質を持っています。例えば茄子の漬け物のぬか床に入れると茄子の色が変わりません。カレーにこの水を使うとお皿についたカレーが水で洗い流せますよと言われた。

インターネットで調べるとシラスの壁が開発されていて、珪酸・シリカゲルなどの除湿材の原料としても使われており、極めて吸湿性が高い成分です。カリウムと結びつくと珪酸カリウムとなり、強い保水力を持ちます。アルミナ・水分やガス吸着力が極めて大きいという特質があり、それが珪酸のもつ吸湿性、珪酸カリウムのもつ保水性とあわせ、除湿や湿度調整にさらに高い効果を発揮します。<シラスの構造>肉眼ではわかりませんが、シラス粒子は、斜長石や石英などの結晶系が約30%、火山ガラス粒子や微粒軽石などの非結晶が約70%で、その非結晶部分は表面積の大きい多孔質構造(表面がツルツルではなく、軽石のようにザラザラと細かいすき間が多く複雑である)をしています。このことが、吸水、保水、除湿、通気、吸音などを高める要因となっています。他にはペイントにも使われていて、優れた断熱性があり、断熱コートを塗布することにより、太陽光線を建物へ伝わりにくくする効果(断熱効果)が非常に優れています。

省エネ対策として、断熱効果により、空調費を節約します。住宅環境やビジネス環境に快適ライフを提供します。試算によると冷暖房に伴うCO2は排出量36%を削減。

厚めの塗膜により、雨音がソフトになる等、吸音も備えています。など、これからの地球温暖化対策に適した素材のようです。私は気のせいか痛風の痛みから解放され普通の生活を取り戻しております。

情報委員 井上 常雄



BGF代表 深澤七郎氏